



池凍來風

風度解

寒梅小面



宮封

年

春

は

は

は

は

書窓有是相

收松

韶紙會文來

有行

口。九。九。九。九。

山。山。山。山。山。

敬のこころ

喜れこころに

重火

乱花を

辰星

早波初長

所為之始
也

其心
懷

其心
懷

思
之

相思
夕上
松

立

蒼
思
蟬
其
海
平

秋

小倉やうきも濃

野邊乃花すま

ののののの

秋乃々々

外物獨醒

松洞色

海波金力

錦江鮮

白露中

心海之靈海
心月

銀

の

沙

遊

子

界

梅

嶺

花

園

一

株

一

万

株

一

株

紅

紫

花

紅

紫

花

花

樂與之野能

山麓白雲橫

江村

如寒

歲海教

馬也

今川了俊對愚息
仲秋制詞條

一不知文道而武道

終不得緒利事
一好鴉鷹逍遙樂事
益殺生事

一小子輩不識弘明
令行死罪事
一科舉為具員沙

一 決政宥免事

一 貪民令沒倒裨

一 私擢榮祀事

一 掠公務重私用不

一 忌天道勸事

一 先祖山莊寺塔以

一破壞莊私宅子

一君父重恩今忘

却忠孝根子

一不辨是非若惡責

罰不正事

一我片下動如之君

亦丁為國前子

一企已亂為貌心他

人愁樂身事

一不知身人限或已

分或不足事

一失他人理致堪

芳樽感事

一姬賢於愛海人波
沙汰事

一美北道向一留任路

白表事

一長酒宴遊興掃眉

忘家賊子

一已迷利根就為泥

嘲他人事

一人來則接空房

之能對面子

一好獨味不能飽人

令隱居事

一武具衣裳已足
下見若事

一貴賤不泐因果道

理任安樂子

一布家沙門不致苦

宗禮儀及正事

一於分國立諸關令

煩從送旅人事

右條之帝示之然

已於通一弓馬公義

乃通之嗜事之武士也

入雖不琢為小一以執

以子第一也夫國也

身也事一子同

也一也夫天下成政

道一也軍書子終也

書也也歌也也也也

少の心は道に正し

貴客の心をなす

ふめりて友に逢

順有るは氷雪方

圓乃若くは

人々を愛するは

婦子實秋愛也

下法國之護民實仁

是——貧民國目民

婦人好——也

君此心之——

國之民其君此愛也

夢を見たりうひわ

心姫書おぼは詰り

恥ぢる(す)もや已に

まぐれ友を乃見わ

れになしることも

ふ好は若人乃賢心也

目

くくくくくく

を懸

松

事

有

何

くくくく

くく

くく

くく

悉

くく

くく

くく

くく

くく

くく

くく

い

くく

くく

くく

くく

くく

くく

くく

を

くく

くく

くく

くく

くく

くく

くく

人

を

くく

くく

くく

くく

くく

くく

成就

事

中示公我

子

子

名將

海

先承

李氏入子之貴賤群

集一子之貴賤群

海歸一子之貴賤群

人乃一子之貴賤群

十貴特心行

知人知面一

名ノ門氣ノ市
事ノ二色
有る理非法也君

又長ノ事ノ民
又長ノ事ノ民
又長ノ事ノ民

時を歎る

し

愁の眉を

か

平権門

事

を城よく分列

下乳台下櫻島先祖

丁亥憲法、沙汰
海、名仕心得大取日
月、學本國古を照

絵、
如、
満、
政、

吾在憂悲忠罰代遠

魚之如之良也其人

小之下之諸士代

功之事之智之才之覺

皆之油之上之下

代之下之批判

事可多之祇行住座

明下佛乃成生也

法法之演法也

心結之碑下文武

海道之心月拾之

之去國民之法事仁

義礼智信一也

はあやうに、もれ多

以政道追を以

人のもろく、操

非、天罪、其恨

は、因果、不可

道を科 才一より下
其忠不忠 其よく分
あーて 其忠不忠

所要也 其よく分
持一も 妻子以下
其の効 其よく分

くさるの伏せ意用
し一人数を不扶持
事の所領を充て

中置を利請
部は後人規矩
時不桐達之付

のふちよりて振威録
事多少也既全我
の意を可好家

生来一以飲心辛
何より事無不
持天下此朝不恥

老編可恨深也

仍歸書此

永享元年九月十五日

有

一書信沙中減多矣

實文康成陽上而後念

玄齋藏

寬延四年辛未五月

日本橋南三丁目

前川六九衛門

大橋庭訓
同風月性来
同改年帖
同加古多女
同書用集
同高臺性来
同江戸性来
同明徳性来
同池凍性来

書林

永樂堂東江郎

名古庭中何六丁目

